

KIRIN

キリングroup東日本大震災被災地支援活動

「復興応援 キリン絆プロジェクト」

～ 6年間の活動と今後の取り組みについて ～



笑顔で結ぶ。人を、日本を。

2017年5月

キリン株式会社

【本件に関するお問い合わせ先】

住 所 : 〒164-0001
東京都中野区中野 4-10-2 中野セントラルパークサウス
キリン株式会社
コーポレートコミュニケーション部
電 話 : 03-6837-7028

■「復興応援 キリン絆プロジェクト」について

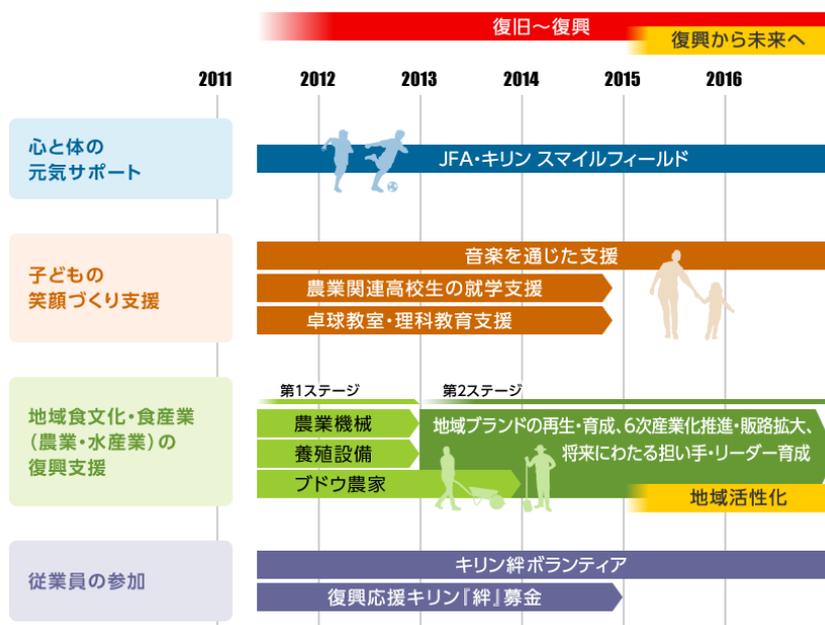
キリングループは、東日本大震災復興支援に継続的に取り組むべく3年間で約60億円を拠出することを決め、2011年7月から「復興応援 キリン絆プロジェクト」として、グループ各社が一体となった復興支援活動を進めてきました。このプロジェクトでは、被災地の皆さまと一緒に復興に取り組みたいという想いから、「絆を育む」をテーマに、被災地の皆さまの“地域社会の絆”や“家族の絆”を一層深めていただけるよう「地域食文化・食産業の復興支援」、「子どもの笑顔づくり支援」、「心と体の元気サポート」の3つの幹で一貫した活動を行ってきました。

当初想定していた3年間の活動期間は2014年6月をもって経過しましたが、復興の現状を踏まえ、未来につながる絆を育むことを目指し、今後も「復興応援 キリン絆プロジェクト」の活動を継続していきます。引き続き、この活動を通じて産業が活性化し、将来に希望を持つ子どもたちが増えてコミュニティに元気が広がり、地域全体が活性化していくことで持続的な復興につながることを目指しています。

■3つの活動の幹



■活動内容の推移



■ 支援活動への拠出について

キリングroupの復興支援活動は、被災地と全国がつながり一人ひとりの想いが大きな力となることを願い、お客様にお買い上げいただいた商品の売上や利益の一部、グループ各社の従業員や家族からの募金を復興支援活動の資金として役立てています。

【活動資金】

キリンビール	キャンペーン、デザイン缶、東北産素材を使用した商品など、各社対象商品の売上の一部、利益の一部を拠出
キリンビバレッジ	
メルシャン	
小岩井乳業	
協和発酵キリン	利益の一部を拠出
キリンエコー	グループ従業員・退職者による保険の新規加入または更新につき拠出
キリン絆募金	国内外グループ各社の従業員やその家族からの募金と、同額のマッチングを行い拠出

これらの資金を各支援活動別に拠出し、3年間の拠出総額は当初予定の約60億円に達しました。「復興応援 キリン絆プロジェクト」では、支援金が各活動に有効に活用され復興に向けた歩みが確実に進むよう、フォロー活動を継続していきます。

【支援活動と拠出額】

単位：円

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	累計
地域食文化・食産業の復興支援	農業復興・再生支援	420,966,051	452,289,000	552,300,000	345,775,100	120,300,000	1,891,630,151
	水産業復興・再生支援	403,000,000	514,916,822	500,000,000	200,275,036	0	1,618,191,858
	大学への支援	20,000,000	40,000,000	0	0	10,000,000	70,000,000
	その他	1,500,000	16,981,769	24,434,148	48,862,965	71,518,518	163,297,400
子どもの笑顔づくり支援	農業関連高校生就学支援	145,890,509	250,000,000	193,478,469	331,531	0	589,700,509
	卓球を通じた支援	6,207,423	46,833,826	66,922,395	44,353,394	0	164,317,038
	理科教育支援	10,000,000	60,225,707	69,311,135	20,885,000	0	160,421,842
	音楽を通じた支援	9,868,950	26,745,680	26,034,060	23,939,134	16,391,462	102,979,286
心と体の元気サポート	サッカーを通じた支援	288,862,560	639,472,343	370,581,214	150,000,000	96,049,070	1,544,965,187
	東北六魂祭の支援	14,895,303	6,000,000	0	0	0	20,895,303
情報収集と発信		0	12,000,000	0	0	0	12,000,000
合計		1,321,190,796	2,065,465,147	1,803,061,421	834,422,160	314,259,050	6,338,398,574

■3つの幹に基づく取り組みについて

(1) 地域食文化・食産業の復興支援

食に携わる企業として復興に貢献したいとの思いから、“生産から食卓までの支援”をテーマとした農業や水産業に対する支援活動を実施してきました。

復興支援に携わる専任担当者を被災地に配置することに加え、在京のプロジェクトメンバーも被災地に頻りに足を運び、農業水産業関係者、さらにはNPOや有識者などと対話を重ねることで実情を把握し、ニーズに合った支援に取り組んできました。

2012年までは、復興支援第1ステージとして、営農再開に必要な農業機械の購入支援や、養殖再開に向けた養殖設備の復旧支援を行いました。2013年からは、第2ステージとして生産支援だけでなく、農作物・水産物のブランド再生・育成支援、6次産業化※1に向けた販路拡大支援、将来にわたる担い手・リーダー育成支援などを継続してきました。

また、「選ぼう ニッポンのうまい！」プレゼントキャンペーンにおいて、岩手県、宮城県、福島県の名産品が当たる“東北応援特別賞”を設け、期間中の対象商品の売上げ1本につき1円を東北の農業・水産業の復興支援策に活用しました（2012年～2013年）。

※1 農業・水産業が1次産業に留まらず、それを加工し販売するところまで視野に入れた事業展開により、農業・水産業の活性化に繋げること。1次産業（農業・水産業）×2次産業（加工）×3次産業（流通）＝6次産業。

① 農業支援

【第1ステージ】（2011年～2012年）

岩手県、宮城県、福島県の農家に対して、JAグループと連携し、稼動していない中古農業機械のリユースを行うなど、営農再開の支援に取り組みました。



営農再開した七ヶ浜生産組合のみなさん

農業機械支援金額合計：5億2,100万円（農業機械：386台分）

岩手県：1億1,500万円（農業機械112台分）

宮城県：2億5,300万円（農業機械213台分）

福島県：1億5,300万円（農業機械61台分）

※いずれも、公益社団法人日本フィランソロピー協会の協力のもと助成。

【第2ステージ】（2013年～）

岩手県、宮城県、福島県のJAや農業団体を対象に生産支援だけでなく、農作物のブランド育成支援、6次産業化に向けた販路拡大支援、将来にわたる担い手・リーダー育成支援などを展開し、2013年1月から2014年12月までに約8億円（39案件）の支援に取り組みました。また、福島県については、原発事故の影響による厳しい状況の中、2015年以降2016年2月までに、1億円（6案件）の追加支援を行い、2016年12月までの期間において、合わせて約1億3,000万円の助成支援を行っていきます。

今後も、引き続き、農作物のブランド育成、6次産業化に向けた販路拡大について、現地に寄り添い、地域のニーズに合った支援フォローを行っていきます。

農業 第2ステージ支援金額合計：9億1,640万円（48案件） ※2017年3月時点

岩手県：2億3,537万円（計11案件：JA関連＝4案件、一般公募＝7案件）

宮城県：3億4,700万円（計17案件：JA関連＝7案件、一般公募＝10案件）

福島県：2億1,074万円（計11案件：JA関連＝5案件、一般公募＝6案件）

* 下記、当初予算枠外の追加助成

福島県：1億2,330万円（計9案件）

※いずれも、公益社団法人日本フィランソロピー協会の協力のもと助成。

(活動事例)

・「気仙沼茶豆のブランド育成」

南三陸農業協同組合に対し支援した農業機械を使って 2012 年 9 月に収穫された「気仙沼茶豆」を、キリンシティ 38 店舗やキリンビール仙台工場内レストランで取り扱いました。その後も宣伝会に参加するなど、ブランド育成支援を継続しています。

また 2013 年 9 月には、全農の協力のもと、ミニトマト「アンジェレ」の導入も、ブランド育成、販路拡大支援を行いました。



気仙沼茶豆宣伝会の様子

・「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」

将来にわたる担い手・リーダー育成として、公益社団法人日本フィランソロピー協会の協力のもと、2013 年 4 月から「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」を支援しています。「農業経営者リーダーズネットワーク in 東北」(農業経営者 84 名:1 期 30 名、2 期 30 名、3 期 24 名)と、「農業復興プロデューサーカリキュラム in 東京」(ビジネスパーソン 124 名:1 期 56 名、2 期 44 名、3 期 24 名)の 2 つを開設し、新しい地域の農業ビジネスの創出を目指しています。



開校式の様子

2 つのカリキュラムは常に相互に連携しながら、地域誘客・新規顧客開拓・新商品開発等の課題解決に向けて取り組んでおり、地域を巻き込み、地域の課題解決につながる将来性のある事例創出が始まっています。

2016 年からは、過去 3 年間で生まれたプロジェクトの地域での自立自走を目指した活動を展開し、他産業との連携を図る新しい農業のカタチを具体的なものにしてきました。

・「遠野パドロンプロジェクト」と「醸造する町 Brewing Tono」

「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」から生まれた「遠野パドロンプロジェクト」では、遠野市で生産される野菜「遠野パドロン」を 2014 年よりキリンシティ全店で取り扱うなど、そのブランド育成や販路拡大に取り組んできました。

また、2015 年からはこの取組みを機に遠野市の農業生産者や行政、民間企業との連携が進み、遠野市の地域産業であるホップを軸に「ビールの里」を目指すまちづくり

「醸造する町 Brewing Tono」を開始しています。



遠野パドロン



遠野ホップ収穫祭

ホップ収穫祭や遠野ビアツーリズムを支援するなど、遠野市の地域創生への取組みに参画しています。

② 水産業支援

【第 1 ステージ】(2011 年～2012 年)

水産業の中でも「養殖業の復興」に取り組み、2012 年までに岩手県はわかめ、宮城県はかき、福島県は青のりを中心に、養殖再開に向けた養殖設備の復旧を支援してきました。



宮城県漁業協同組合生かき保管冷蔵施設

養殖設備復旧支援金額合計：4億2,220万円

岩手県：9,500万円

（盛岡冷凍工場新冷蔵冷凍施設、わかめ養殖施設整備事業への支援）

宮城県：2億3,220万円

（生かき保管冷蔵施設建設、かき養殖施設で使用する大型重機などの支援）

福島県：9,500万円

（松川浦の青のり養殖事業復旧の支援）

※いずれも、公益財団法人日本財団の協力のもと助成。

【第2ステージ】（2013年～）

岩手県、宮城県、福島県の水産業関係者を対象に、生産支援だけでなく、水産物のブランド育成支援、6次産業化に向けた販路拡大支援、将来にわたる担い手・リーダー育成支援などを展開しています。

岩手県、宮城県については、2013年から2015年12月までに、約8.5億円（36案件）の支援に取り組みました。福島県については、原発事故の影響による厳しい状況の中、2015年度に2,500万円（2案件）の支援を行いました。今後も、2016年12月までの期間において、合わせて約1億円の助成支援を行っていきます。

今後も、引き続き、水産物のブランド育成、6次産業化に向けた販路拡大について、現地に寄り添い、地域のニーズに合った支援フォローを行っていきます。

水産業 第2ステージ支援金額合計：10億1,041万円（47案件） ※2017年3月時点

岩手県：3億8,720万円（19案件）

宮城県：4億7,000万円（17案件）

福島県：9,756万円（7案件）

その他：5,565万円（4案件）…人材育成

※いずれも、公益財団法人日本財団の協力のもと助成。

（活動事例）

・「大船渡越喜来（おきらい）・豊かな漁村創生プロジェクト」

岩手県大船渡市の地域資源利活用推進協議会（有）三陸とれたて市場 代表取締役 八木健一郎）に対し、「大船渡越喜来・豊かな漁村創生プロジェクト」の支援金として5,000万円を公益財団法人日本財団（会長 笹川陽平）の協力のもと助成。被災地の水産業再開に向け、水産物のブランド育成支援、6次産業化に向けた販路拡大支援を行うもので、「浜の台所」CASセンターや観光対応型番屋の建築費用の一部として活用されています。



観光対応型番屋

・「女川ブランディングプロジェクト」

宮城県女川町（町長 須田善明）に対し、「女川ブランディングプロジェクト」の支援金として5,000万円を公益財団法人日本財団（会長 笹川陽平）の協力のもと2013年10月に助成。水産物ブランド育成支援や、6次産業化に向けた販路拡大支援を行うもので、女川町ならびに「復幸まちづくり女川合同会社」が計画する水産業の町・女川の復興に向けた「女川ブランディングプロジェクト」として、女川ブランド「あがいん女川」の育成や水産業体験施設「あがいんステーション」の開設などに活用されています。



あがいん女川ブランドの商品

引き続きキリンビール仙台工場での女川町の情報発信や「まちびらき」への参加など、地域の皆様と一体となって活性化に取り組んでいます。

- ・水産業の人材育成プログラム「三陸フィッシャーメンズ・キャンプ」「フィッシャーメンズ・リーグ」

2013年から一般社団法人東の食の会（東京都品川区、代表理事：楠本修二郎、高島宏平）が行う将来にわたる担い手・リーダーの育成支援「三陸フィッシャーメンズ・キャンプ」について、日本財団の協力のもと、2,200万円の助成を行い、協働で取り組んでまいりました。また、2015年10月には、東の食の会が、同キャンプから生まれた三陸水産業の若手リーダー達によるネットワーク組織「フィッシャーメンズ・リーグ」を立ち上げ、2,900万円の助成を行いました。同組織では、「『三陸/SANRIKU ブランド』を世界に誇るブランドにしよう！」というビジョンを掲げ、若手リーダーたちの絆を深め、地域を越えた連携によって「三陸/SANRIKU ブランド」の育成やPR、プロモーション、食育活動、輸出事業開発などに協働で取り組んでいきます。

③ 大学への支援

東北の3大学が立ち上げたプロジェクト支援のため、2012年より2015年にかけて、地域食産業の復興支援として合計7,000万円を助成するなど、継続した支援を行ってまいりました。

また、2015年から「ふくしま復興塾」の運営主体となった「一般社団法人 ふくしまチャレンジはじめっぺ」（理事長 加藤博敏）が福島県と連携して福島復興のために取り組む「ふくしまからはじめよう。未来づくりはじめっぺ」への支援金として、3,000万円を助成し、福島復興に向けての取組を協働で行っています。

東北大学「食・農・村の復興支援プロジェクト」：2,000万円

岩手大学「水産物高付加価値化プロジェクト」：2,000万円

福島大学「福島復興を担う若者向け人材育成プロジェクト（ふくしま復興塾）」：3,000万円

※ふくしま復興塾のプロジェクトから生まれた、福島産の食材をふんだんに使用した「福島につながる弁当」は、2015年12月末までに、第一弾・第二弾ほかの合計で15,190個を、2015年11月から販売を開始した駅弁・空弁の合計で2016年2月までに4,889個を販売しました。

(左) 第一弾「麓山高原豚（はやまこうげんとん）のあまから焼き弁当」

(中) 第二弾「～贅沢三味“和洋中”～至高の福島牛弁当」

(右) 「シェフのトマトハンバーグ～福島野菜のソテーを添えて～」

* 現在は販売を終了しております



④ ワインの原料ブドウ産地に対する支援

メルシャンのワイン造りを約30年にわたって支える契約農家を支援しました。シャトー・メルシャンシリーズ等の原料ブドウ産地である福島県新鶴地区に雨除けのビニールや薬剤散布機を、秋田県大森地区に雨除け施設、ビニール、薬剤散布機を提供しました。



契約農家に提供した農薬散布機

(2) 子どもの笑顔づくり支援

被災地の将来の発展を支える子どもたちの学びの機会を大切にしたいという願いから、岩手県、宮城県、福島県の地域産業復興の一翼を担う、農業高校および農業科の被災した高校生への奨学金の給付や理科教室の実施、子どもたちの笑顔を広げるために、音楽や卓球を通じた支援を行いました。

① 農業関連の高校生の就学支援

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) と協力して「麒麟SCJ『絆』奨学金」を設立し、岩手県、宮城県、福島県の被災した農業高校および農業科の高校生を対象に、返還義務のない月額3万円の奨学金を給付しました。奨学金は主に農業実習費用や資格取得費用に充当され、受給生の就学支援に役立てられました。対象校及び受給生は、2011年度は12校、598名、2012年度は20校、662名、2013年度は20校、510名です。

(2011年～2013年受給生: 延べ1,770名 岩手県23名、宮城県737名、福島県1,010名)



対象校の田植え実習に参加

② 音楽を通じた支援

小林研一郎 (通称: コバケン) による「コバケンとその仲間たちオーケストラ」と協働し、岩手県、福島県において被災された方々を無料招待するコンサートを2016年までに15回開催しました。

またピアノデュオ「レ・フレール」と、被災地の子どもたちに、ファンの皆さんからの募金などで購入した楽器をお届けし、ピアノ演奏やオリジナル音楽ノートをプレゼントする活動を行い、2013年までに岩手県と宮城県の13カ所の保育園や小学校などを訪問しました。



「コバケンとその仲間たちオーケストラ」

③ 卓球を通じた支援

誰もが楽しめる卓球を通じて被災地の皆さまの笑顔の輪を広げる活動を、実業団トップクラスの協和発酵麒麟社卓球部の協力のもと、岩手県・宮城県・福島県で展開しました。小中高生を対象に「協和発酵麒麟卓球教室」を2011年11月から開催し、2014年6月末までに28会場で6,860名が参加しました。2012年から大人も参加できる卓球交流会をスタートし、2014年6月末までに仮設住宅等での卓球交流会を24回(1,923名参加)、障がい者卓球交流会を6回(385名参加)開催しました。また、累計326台の卓球台の寄贈も行いました。その他、協和発酵麒麟第4回4県絆卓球交流大会において「卓球ラリーに参加した最多人数」でギネス世界記録®に挑戦し、子どもたちを中心に139人でラリーをつなげ新記録を達成しました。



選手による模範試合

④ 理科教育支援

バイオ研究の意義と面白さを知る機会を提供するとともに、東北の産業の未来に新しい視点で夢や希望・目標を抱くきっかけづくりとして、日本農芸化学会による支援のサポートと東北バイオ教育プロジェクトの2本柱で、岩手県・宮城県・福島県で展開しました。

日本農芸化学会による支援校数は2014年12月末までに中学校23校・高校46校で、出前授業、大学の研究室・ジュニア農芸化学会への招待、顕微鏡などの物品寄付などを行いました。

東北バイオ教育プロジェクトでは支援校を6校に絞り、高校生・高専生による研究を継続的に応援し、研究成果を取りまとめた記念冊子を2014年6月に発行しました。



成果発表会

(3) 心と体の元気サポート

子どもの笑顔が原動力となって元気が増え、日々の活力を応援したいと考え、サッカーを中心として、世代を超えた絆が育まれることをサポートしてきました。

① サッカーを通じた支援

公益財団法人日本サッカー協会の協力を得て、岩手県、宮城県、福島県の小学生を対象に、巡回によるサッカー教室「JFA・キリン スマイルフィールド」を開催し、サッカーを通じてスポーツの楽しさ、心の豊かさを伝えています。元サッカー日本代表選手などがコーチとなりサッカー教室を展開するほか、ボールやゴールなどの備品を実施した小学校に寄贈することで、いつでもサッカーを楽しめる機会や場づくりを行いました。

2011年9月1日に仙台市の小学校で第1回目開催し、2017年3月3日までの6年間で、岩手県、宮城県、福島県の693校で開催（岩手県114校、宮城県296校、福島県283校）、103,752人の小学生にご参加いただきました。



■地域にねざした商品の展開

キリングroupはこれまで、岩手県遠野産ホップを贅沢に使用した「一番搾り とれたてホップ生ビール」や、地域で暮らすお客様と一緒に、地域の魅力を発掘しながらつくりだす「47都道府県が一番搾り」、福島県の豊かな恵み、おいしさを全国にお届けする「キリン 氷結® 福島産 梨<限定出荷>」、「キリン 氷結® もも」など、東北地方の豊かな原料や素材を活用した商品を発売してきました。キリンビバレッジからは、2016年6月に東北の果実を使った「小岩井 東北のおいしい果実 Sparkling」を発売しました。当社は、今後も風土や文化にねざした商品の開発や楽しみ方のご提案を行い、地域の皆様と一緒に笑顔になれる場を広げていきます。

- ・「一番搾り とれたてホップ生ビール」（2004年より発売）



- ・「47都道府県が一番搾り」（2016年発売）



- ・「キリン 氷結[®] 福島産 梨<限定出荷>」(2013年より発売)



- ・「キリン 氷結[®] もも」(2016年より通年発売)



- ・小岩井オードブルチーズ…期間限定品、いずれも販売終了
 - ・三陸産(岩手県)「桜こあみ」を使用した「小岩井 オードブルチーズ【桜こあみ】」
 - ・三陸産(岩手県)「鮭」を使用した「小岩井 オードブルチーズ【鮭】」
 - ・三陸産(宮城県)「黒海苔」を使用した「小岩井 オードブルチーズ【海苔】」
 - ・三陸産(岩手県)「真いか」を使用した「小岩井 オードブルチーズ【真いか】」
 - ・「小岩井 オードブルチーズ【牛たん】」

■従業員の参加

① キリン『絆』ボランティア

キリングループ全体で参加意欲のある社員を募り、継続的に被災地にボランティアを派遣しています。2011年は、7月から8月にかけて仙台市で地域のボランティアセンターの方の指導のもと泥かきなどを行いました。2011年10月から11月、2012年5月から12月までは、石巻市社会福祉協議会の協力のもと、支援の手が行き届きづらい地域の石巻市雄勝町立浜にて漁業支援の活動を行いました。2013年から2016年は、未だ復旧が進んでいない南三陸町で、社会福祉協議会の南三陸町ボランティアセンターの協力を得て、現地のニーズに基づき、農地の整備、側溝の清掃、牡蠣の仕分け、仮設住宅への訪問などの活動を行いました。これまでに合計1,131名のグループ各社の社員がボランティア活動に参加しました。

② 復興応援キリン『絆』募金

国内外のキリングループが一体となり、従業員やその家族を含めた「キリン『絆』募金」を実施し、募金を通じて被災地を応援しています。2011年は会社からの募金など25,079,804円を「子どもの笑顔づくり支援」の一環として実施している「キリンSCJ『絆』奨学金」に役立てました。2012年は、宮城県漁業協同組合に対し、かき養殖事業復旧にむけての資金として13,707,664円(会社の同額のマッチング含む)を寄付しました。2013年は、JA全農福島県本部に対し、福島県産果樹事業の再興及びブランド確立支援のために、7,071,040円(会社のマッチング含む)を寄付しました。2014年は5,348,400円(会社のマッチング含む)を寄付し、福島県の農業振興を支援しました。

■地域創生へのチャレンジ

2016年からは、これまでの東北での復興支援活動から得られた知見やネットワークを活かし、日本各地の社会課題の解決に、食を通じて地域の皆さまと一緒に取り組む、地域創生へのチャレンジを行っています。

① 石川県七尾市 『Third Kitchen Project』

石川県の能登・七尾は、世界農業遺産に認定されながらも、過疎化と後継者不足が深刻化し、コミュニティの衰退の危機にあります。そのような課題に取り組むべく、地元をこよなく愛する農業・水産業の若手生産者たちが立ち上がり、「能登F-Fネットワーク」を結成しました。そして特色ある野菜や魚などの能登食材を軸として「料理人と生産者が行き交う」コミュニティを形成する『Third Kitchen Project』をスタートさせています。(Third Kitchen=お店でもない、自宅でもない、シェフにとっての第3のキッチン・能登七尾)

キリンは一般社団法人RCFの協力の元、事業立ち上げサポートや広報活動の支援、更にはキリンが持つ飲食店とのネットワークを活用し、飲食店と生産者を繋ぐ支援を行っています。



生産者の話を聞きながら能登の恵みを食す「食談義」を行いました



生産者と料理人が交流する「Third Kitchen Tour」を実施しました

② 新潟県長岡市 『スノーフード長岡ブランド協議会』

長岡市は、豊かな大地に恵まれ、長年「米どころ」として日本の農業を支えてきた地域ですが、冬は積雪によって農地利用ができないという従来の課題に加え、国内の米消費量の減少や米価の下落などによる農業収入減少の影響で、特に雪深い中山間地域では後継者不足が課題となっています。雪にまつわるこの独自の食文化を、「snow food/スノーフード」という、訪日外国人や日本居住外国人をターゲットとした魅力発信が可能な長岡産品統一ブランドに育てていくために生産者、飲食店、加工業者、流通、小売、旅館、サービス業など、さまざまな立場の人が共にブランドを話し合い、発信し、前進していくプラットフォームを結成しました。キリンは一般社団法人RCFの協力の元、広報面の支援や協議会に賛同する飲食店をご紹介する支援を行っています。



事業方針発表の様子



雪下野菜

③ 長崎県佐世保市「佐世保 Only One つくるプロジェクト」

佐世保市は全国でも有数の水揚げ高を誇り、魚種も豊富で（少量多魚種）市民は恩恵を受けていますが、水産業は身近ではなく、また飲食店等で佐世保産を食べられる機会も少ないという現状があります。そのため加工や営業を行うことが少なく、市場価格に左右されやすいという傾向があります。そのような背景の中、佐世保の一次産業食材・生産者が、飲食店・量販店・生活者と一緒に協働し、食材の価値を創意工夫し、高めることで、佐世保にしかない ONLY ONE 食材をつくらうという想いで立ち上がったのが「佐世保 Only One つくるプロジェクト」です。

まずは佐世保市民が愛着のある食財づくりを目指す取り組みとして、第一弾として「九十九島とらふぐ」の市内向けキャンペーンを行い、ホテルや居酒屋などに活魚や加工品を出荷する他、市内でも店頭販売を行い、キリンも一般社団法人 RCF の元、企画や広報、販路拡大で支援しました。平成 29 年 8 月 31 日には、佐世保市の特産品である世知原茶、九十九島とらふぐ、赤マテ貝のブランド力を強化するプロジェクトの事業発表会を行いました。



④ 『地域創生トレーニングセンタープロジェクト』始動

地域に新しい価値を生み出すリーダーやプロデューサーが連携することで、より魅力的な日本各地の食文化を掘り起し、今後の地域創生の一役を担っていくことを目的として 2016 年に始動しました。1 期目は全国から 14 名の地域リーダー・プロデューサーが集結し、それぞれの地域でのフィールドワークを通して取り組みを紹介し、みんなで課題解決を目指し熱い交流が行われました。2017 年度は新たに 10 名のメンバーを迎え、食文化を中心に地元を盛り上げるプロジェクトを生み出す人々を全国規模でつないでいきます。



新潟県長岡市でのフィールドワークの様子

■今後の方向性と取組み

震災から6年が経過し被災地の復興も徐々に進んできましたが、福島県は他県に比べ農業・水産業ともに活動の遅れが見られるなど、地域によってその進展に差があるのが実情です。また、そもそも各地域が抱えていた高齢化や過疎化などの根本的な社会課題への取り組みは緒に就いたばかりです。

キリングroupは、今後も東北の復興支援活動を継続し、昨年発生した熊本地震の復興応援活動も引き続き取り組んでまいります。また、これまでの復興支援活動から得られた知見やネットワークを活かし、引き続き地域創生へのチャレンジを行っていきます。

そして笑顔のあふれる食卓が広がるよう、『復興から未来へ』、活動を推進してまいります。

<今後の取組み概要>

1. 東北での取組み

- ・農業・水産業における「地域ブランドの再生・育成支援」、「6次産業化の推進・販路拡大」、「将来にわたる担い手・リーダーの育成」の3つの取組みの継続、並びにキリングroup事業との連携の強化
- ・福島県の復興支援の継続
- ・「キリン『絆』ボランティア」の継続

2. 熊本復興応援の取組み

- ・「復興応援 キリン絆プロジェクト」熊本支援として、「食産業復興支援」「地域の活性化支援」「心と身体の元気サポート」の3つの幹で活動していきます。

3. 地域創生へのチャレンジ

- ・地域にねざした商品の展開
- ・「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」の継続・・・ネットワーク作り

＜参考資料＞キリングループ復興支援関連商品

【2011年】

商品名	取り組み内容
キリン 午後の紅茶ストレートティー	<p>＜東日本大震災復興支援の第一弾＞</p> <p>「キリン 午後の紅茶」で、お客様の笑顔ひろげる活動「紅茶で笑顔を。」プロジェクトを、アクセサリーブランド「Q-pot.」と共同で展開。2011年5月16日～2011年7月31日に出荷した「午後の紅茶」全アイテムの売上の一部から、東日本大震災の復興支援金を拠出。</p> 
キリン 午後の紅茶ミルクティー	
キリン 午後の紅茶レモンティー	
KIRIN LOVES SPORTS (キリン ラブズ スポーツ) サッカー日本代表応援デザインボトル	<p>＜東日本大震災復興支援第二弾＞</p> <p>売上の一部から復興支援金を拠出。日本代表応援デザインボトルを採用。</p> 
キリンアルカリイオンの水	<p>＜東日本大震災復興支援第二弾＞</p> <p>売上の一部から復興支援金を拠出。サッカー日本代表応援デザインボトルを採用。サッカー日本代表をモチーフにした“応援メッセージ入り”のデザインボトル期間限定で販売。</p> 
キリン一番搾り生ビール サッカー日本代表応援缶	<p>「サッカー日本代表応援缶」や「サッカー日本代表震災復興応援デザイン6缶パック」を含む、2011年7月1日～31日までにお買い上げいただいた当社ビール類の350ml缶と500ml缶の全商品について、1本あたり1円を集計し、その総額を震災の復興支援に活用。</p> 
麒麟淡麗<生> サッカー日本代表応援缶	
淡麗グリーンラベル サッカー日本代表応援缶	
キリン のどごしく生> サッカー日本代表応援缶	
シャトー・メルシャン 新鶴シャルドネ	
日本の地ワイン 新鶴シャルドネ	<p>対象商品の売上の一部を東日本大震災の復興支援金として拠出。</p> 
メルシャン 新鶴のあわ	
シャトー・メルシャン 大森リースリング	
日本の地ワイン 大森リースリング	
メルシャン 大森のあわ	<p>売上の一部から復興支援金を拠出。</p> 
KIRIN LOVES SPORTS (キリン ラブズ スポーツ)	
麒麟淡麗<生> サッカー日本代表応援缶<第2弾> 淡麗グリーンラベル サッカー日本代表応援缶<第2弾>	<p>2002年から発売している「サッカー日本代表応援缶」に「なでしこジャパン」(サッカー日本女子代表)の選手が登場するのは今回が初めて。</p> 

小岩井 金色ヨーグルト	販売数量に対し1個あたり1円を積み立て、キリングループの「復興支援 キリン絆プロジェクト」の活動の一つである、「子どもの笑顔づくり支援」に活用。 
キリンチューハイ 氷結®アップルヌーヴォー	復興に向かう東北の大地でリンゴ農家の方々が心をこめてつくった初摘みリンゴを使用するこの商品を全国発売することで、東北の農家を応援し東北復興を支援。売り上げ1本につき1円を東北の「食」の復興支援に活用。 
一番搾りとれたてホップ生ビール	今年とれたての岩手県遠野産ホップを贅沢に使用した今しか飲めない特別な一番搾り。売り上げ1本につき1円を東北の「食」の復興支援に活用。 
キリン 大人のキリンレモンリミテッド	売り上げの一部を復興支援金として拠出する、この冬だけの限定商品。EXILE メンバー監修、「EXILE Rising Sun Project」商品。 

【2012年】

商品名	取り組み内容
KIRIN LOVES SPORTS (キリン ラブズ スポーツ) 2012 サッカー日本代表応援デザインボトル 2012 なでしこジャパン応援デザインボトル	サッカーを通じた東日本大震災復興支援。デザインボトルの売上の一部を東日本大震災の復興支援金として拠出。 
キリン一番搾り生ビール サッカー日本代表応援缶〈第2弾〉	1本あたり1円を集計し、今後のサッカーを通じた復興支援に活用。
麒麟淡麗〈生〉 サッカー日本代表応援缶〈第2弾〉	
淡麗グリーンラベル サッカー日本代表応援缶〈第2弾〉	
キリン のどごし〈生〉 サッカー日本代表応援缶〈第2弾〉	
キリン 麦のごちそう サッカー日本代表応援缶〈第2弾〉	
キリン フリー サッカー日本代表応援缶〈第2弾〉	
キリンチューハイ 氷結®アップルヌーヴォー〈期間限定〉	東日本大震災後の復興を目指す東北のリンゴ農家の方々が心をこめてつくった今年の初摘みリンゴの果汁を使用。売り上げ1本につき1円を東北の農業の復興支援に活用。 
一番搾り とれたてホップ生ビール	岩手県遠野市で今年の夏に収穫したばかりのホップを贅沢に使用。売り上げ1本につき1円を東北の農業の復興支援に活用。 

【2013年】

商品名	取り組み内容	
キリン一番搾り生ビール サッカー日本代表応援缶	1本あたり1円を集計し、「JFA・キリン スマイルフィールド」などの復興支援活動に活用。	
麒麟淡麗<生> サッカー日本代表応援缶	「2013 ユニT・ユニCAN当たる！」キャンペーンを実施。	
淡麗グリーンラベル サッカー日本代表応援缶		
キリン のどごし<生> サッカー日本代表応援缶		
キリン ラブズ スポーツ 2013 サッカー日本代表応援デザインボトルA		売上の一部を東日本大震災の復興支援金として拠出。
キリン ラブズ スポーツ 2013 サッカー日本代表応援デザインボトルB		
キリン ラブズ スポーツ ビタミンチャージ 2013 サッカー日本代表応援デザインボトルA		
キリン ラブズ スポーツ ビタミンチャージ 2013 サッカー日本代表応援デザインボトルB		
キリン一番搾り生ビール サッカー日本代表応援缶<第2弾>	1本あたり1円を集計し、「JFA・キリン スマイルフィールド」などの復興支援活動に活用。	
麒麟淡麗<生> サッカー日本代表応援缶<第2弾>		
淡麗グリーンラベル サッカー日本代表応援缶<第2弾>		
キリン のどごし<生> サッカー日本代表応援缶<第2弾>		
一番搾り とれたてホップ生ビール		1本の売上げにつき1円が、東北の農業の震災復興支援策に活用。
キリン 氷結® アップルニューヴォー<期間限定>		
キリン 氷結® 和梨<期間限定>		
小岩井オードブルチーズ 東北復興支援チーズ 第1弾 岩手県産の桜こあみ 第2弾 岩手県産の鮭 第3弾 宮城県産の黒海苔 第4弾 岩手県産の真いか 第5弾 牛たん	1箱あたり1円を集計し、キリングループの復興支援活動に活用。 	

【2014年】

商品名	取り組み内容
一番搾り とれたてホップ生ビール	ホップの産地として有名な岩手県遠野市で今年の夏に収穫したばかりのホップを贅沢に使用。 
キリン 氷結® アップルヌーヴォー<期間限定> キリン 氷結® 和梨<期間限定>	2014年秋に収穫した東北産りんごの氷結®ストレート果汁を使用。福島産の和梨を使用し、昨年に引き続き福島 の農業を応援。  

【2015年】

商品名	取り組み内容
一番搾り とれたてホップ生ビール	ホップの産地として有名な岩手県遠野市で今年の夏に収穫したばかりのホップを贅沢に使用。 
キリン 氷結® 福島産桃<限定出荷>	福島産の桃を使用することで、福島 の農業を応援し、福島 の豊かな恵み、おいしさを伝える。 
キリン 氷結® 福島産 梨<限定出荷>	福島産の梨を使用することで農業を応援するとともに、当商品を通じて福島 の豊かな恵み、おいしさを伝えていく。 

【2016年】

商品名	取り組み内容
キリン 氷結® もも	福島県で収穫された桃の氷結®ストレート果汁を主に使用。 

以上